

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
清風クラブ2階研修室（渋谷区上原3-32-6）
会場整理費：700円 問合せ：03-3465-0671

8月は休会、9月23日（土）は祭日のため休会

9月9日（土）「なぜ生まれ、老い、死ぬのか」 [中野サンプラザ]
田上太秀 先生 駒澤大学名誉教授

10月14日（土）「あらためての仏教入門」ーブツダからメッセージが届いています [清風クラブ]
黒川文子 先生 東方学院講師

10月28日（土）この世とあの世 [中野サンプラザ]
本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長

11月10日（金）※ この世とあの世 [中野サンプラザ]
南直哉 先生 曹洞宗霊泉寺住職
※第2金曜日の平日開催となりますのでご注意ください

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 問合せ：06-6346-7000

9月15日（金）「大事と小事」
真城義麿 先生 真宗大谷派善照寺住職

11月17日（金）「地獄を拜む思想ー白隠禅師と法華経」
西村恵信 先生 花園大学名誉教授

名古屋 第3水曜日 午後1時30分～3時
会場：いちご丸の内ビル9階（中区丸の内3-17-13）
会場整理費：500円 問合せ：052-962-4181

9月20日（水）演題未定
赤池憲昭 先生 愛知学院大学名誉教授

11月15日（水）演題未定
林淳 先生 愛知学院大学教授

いのち尊し

協会に入会するまで

相澤一男

（在家仏教協会理事）

第4号

いのち尊し

平成29年8月1日

一般社団法人 在家仏教協会

〒151-0064 東京都渋谷区上原3-32-6

TEL 03-3465-0671

FAX 03-3465-0672

太平洋戦争が敗北で終わった時、私は十七歳だった。徹底した軍国教育皇民教育を受け、戦争になんかの疑問を持たず、間もなく自分も戦場に出て戦死することになるだろう、と思い込んでいた。

ところが敗戦となり、前途は戦死の一事のみ、としか考えていなかったのが、いきなり混沌の中に放り出された。これからどうしたらよいか、疎開先の山林をさまよいつつ、いながらはでもない思念をくり返していった往事を思い出す。

一方、進学した早稲田大学では、革命を呼号する学生があふれていた。友人たちと何度も議論し「理論が低い」ときめつけられたが、高揚する友人たちに同調することはできなかつた。

ちようどその頃、奈良へ行くという話がもちあがった。同じ学部

の美術史専攻の学生たちの修学旅行に、私たちも参加することが許されたのである。戦時下の生活にあつて、関西旅行など思いもよらなかつた。時に昭和二十五年、朝鮮戦争が勃発し物情騒然とした年である。

私たちは、今はない奈良市内の日吉館に泊まり、一週間かけて古寺を巡り、飛鳥から天平にかけての仏像の優品を見学して回った。知識としてはとぼしく、ほとんど

白紙の私は、はじめて対面した仏像にかつてない強い印象を受けた。東大寺法華堂に足をふみ入れた時の驚きと興奮は、今も記憶にある。唐招提寺開山堂の鑑真像は、私たちが大きく包みこんでくれる慈父のような包容力を感じた。とりわけ、薬師寺の三尊像の前に立つ

た時には、そのただならぬ迫力に、身動きもできぬ思いがした。仏像に次々と対面し、その美しさと迫力に心を奪われながら、敗戦と戦後のなかにあつて、しっかりと立つて動じないものがここにあり、という思いが次第に強くなった。

一日の行程が終ると、私たちは近くの居酒屋で安い焼酎を飲みながら話しかけた。私たちは今まで、抹香臭い古ぼけた仏像しか見たことがなかったが、奈良の仏像のあの若々しい迫力は何だだろう、と。

あの仏像の時代はどうだったのか。原始の蒙昧を脱し、新たな国造りが課題となった時代に、若いエリートたちは力をつくして仏教

を取り入れようとした。仏教はその当時にあつて、最新の文明そのものだった。今日残る仏像は、国造りを仏教に賭けた当時の若者のいわば青春の夢の結実ではないか――議論と酒に熱したまゝ店を出ると、町は深い闇のなかに静まりかえつていた。

仏像に鼓舞されて東京に戻り、くわしく仏教を学びたいと思つていたところ、偶然に在家仏教協会を知った。会合に出るようになったのは昭和三十九年からだが、その後協会を通じて多くの個性豊かな人たちと出会いがあり、師として傾倒した先達に会うという幸運にも恵まれた。八十九歳となった今日、多くの故人となられたその方々の面影を偲ぶと、あらためて協会との長く深い縁が思われるのである。

在家仏教協会 四つの信条

- 一、釈尊の説法虚言ならずと信じていること。
二、釈尊の説法の内容そのものは永遠の真理であるが、それを大衆に知らせる手段は、時と処と人に応じつねに新鮮でなければならぬと信じていること。
三、呪術らしきものは一切排除すること。
四、在家生活のまま仏教に生きようとしていること。

仏教と私

増谷先生のことなど

高柳恒忠
(会員、七十七歳)

東京外国語大学四年生の春、増谷ゼミの七人の学生は、卒業論文のテーマを決めることになりました。

私は「仏教の根本のお釈迦様に取り組みたい」と指導教官増谷文雄教授に申し上げましたら、先生は仰いました。「釈尊は君には大物過ぎて無理だ。せめて鎌倉仏教のお祖師様のうちのどなたかを選びなさい」

再度同じ希望を申し上げますと、先生は折れて下さいました。「それではドイツの仏教学者ヘルマン・オルデンベルクに『仏陀——その生涯、教理、教団』という著書があり、既に翻訳されているが、そのダイジェスト版はまだ和訳されていない。それを翻訳して、コメントを付けて提出しなさい」
それから一年、ドイツ語との格闘に明け暮れましたが、何とか卒業してある商社に入社しました。

その会社は東京大手町の大手町ビルにありました。雑居ビルでしたので、協和発酵のご本社や在家仏教協会の事務局も入っていました。当時土曜日は休日ではなく「半ドン」でしたので、講演会のある土曜日は、午前中仕事をし、午後になるとエレベーターで数分移動しただけで講演会場に着き、講演を聴くという至福のような一日でした。

後期高齢者になり、来し方を顧みますと、増谷先生に導かれ釈尊の教えに出会えたこと、協会の講演会にて多くの先生方のご講話を直接お伺いできたことを、大変な幸せと思っています

追想として感謝

尾崎 進
(協和発酵OB)

八月十五日には、終戦記念日、月遅れ盆を迎える。五年前に故郷・波佐見(長崎)の墓を、東京の自宅近くのお寺の供養塔に改葬をお願いした。今度の菩提寺は故郷同様、八月の盆行事。故郷の景色を険にして盆入りの準備、平和の願いを深めつつの盆まいりである。

そして、八月十五日は、加藤辨三郎会長の祥月命日である。善知識の加藤会長には、多くのことをご教示頂いた。

加藤会長には社長をされていた時、初めてお会いした。昭和三十一年の協和発酵の中央労使協議会である。酒類部門の拡充についてお話しされたことが記憶に残る。私は労組の支部、中央の役員を務めたこともあって、年二、三回お話しする機会を頂いた。私共の意見に耳を傾け、誠実にお答え下さる姿勢が印象深く残っている。

労組の専従をやめ、畜産菓の営業担当となり、群馬の養鶏場を訪ねた時、場主から「加藤さんの会社の社員かね」と聞かれ、「そうです」と答えると、製品説明もそこそこに、お買い上げ頂いた。加藤社長との関係をお聞きすると、在家仏教講演会でお話を聞いたことがあるとのこと。お買い上げの判断との繋がりは「？」であるが、「信ずる」ことについて考えさせられた一日であった。
加藤会長のお話、ご著書などで仏教の門に立たせて頂いたが、八十八歳となった今も歩を進めえなっている。勉強不足を痛感する昨今である。

入会のご案内

協会では会員を募集しております。私どもは、皆様の会費と寄付によって活動しております。協会の発展のためにご協力を宜しくお願い致します。

- 年会費
- 賛助会員 一万七千円(一口)
- 正会員 八千円

■月刊誌「大法輪」を毎月お届けいたします

■在家仏教講演会の筆録が掲載中
■機関紙「いのち尊し」を毎月お届けいたします

■講演会の動画を視聴出来ます
東京会場を中心に三十本配信中心

■協会六十周年記念誌
『「講演集」悲喜をよるこぶ』
『「対談集」掌を合わせて生きる』
を進展します。



昭和五十八年四月、大手町ビルの本社で偶々お会いし、お話しさせていただいたが、それがお話を伺う最後の日となった。

札幌勤務の時、加藤会長から「忍終 不悔」と揮毫された色紙を頂いた。日々心に刻み、余生の教訓としている。

図書贈呈のご案内

本協会が保管している書籍を、会員のみならず無料でお分けします。事務局までご連絡下さい。在庫切れの場合はご容赦下さい。

- 「加藤辨三郎 著作」
- 一字の力
- 教行信証のことば
- 日日あらたに
- 仏教と私
- 念佛のおすすめ
- 「金子大榮 著作」
- 人・佛
- ありがたさについて
- 凡夫のさとり
- 念佛と人生
- 雑想観
- 「編集部 構成」

私には、仏教がある
いのちゆたかに

「いのち尊し」投稿規程

◇随想「仏教と私」(八百字まで、または千五百字まで)
◇人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動などをお書きください。
◇コラム「この一冊」(六百字以内)

感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出の本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、できれば職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用文には薄謝をお送りします。また、不採用の原稿はお返ししませんのでコピーを手元に残してください。

原稿の送り先は〒151-0006
4 東京都渋谷区上原3-32-16
在家仏教協会「いのち尊し」係。
メールは info@zaikebukyo.com

在家仏教通信

今秋の旅行会のお知らせ

良寛、親鸞、日蓮ゆかりの地を訪ねて新潟へ

在家仏教協会では二泊三日で良寛さん、親鸞聖人、日蓮聖人ゆかりの地を新潟を訪ね、法話を聞く旅を企画しました。参加者を募集します。今回は、全国良寛会会長の長谷川義明さんをお招きして講演会を開催するほか、親鸞聖人ゆかりの地では、協会にご縁をいただきました金子大栄師、曾我量深師のお孫さんより、ご案内をいただきます、その足跡を訪ねます。

*

◇期日…十月二十四日(火)〜十月二十六日(木)

◇主な拝観先…良寛堂、国上寺、五合庵、法福寺、曾我平澤記念館、北方文化博物館、居多ヶ浜、ゑしの里記念館その他

◇宿泊先…十月二十四日(火)ホテルサンルート新潟、二十五日(水)岩室温泉ほてる大橋館の湯

◇集合…JR新潟駅新幹線改札口(十月二十四日十三時)

◇解散…JR上越妙高駅新幹線改札口(十月二十六日十四時四十五分予定)

◇参加費用…七万三千四百円(七月号では、旅館の飲み物代が誤っておりましたので、訂正させていただきます) (集合地まで、及び解散地からの交通費は別途自己負担となります) (ホテル・旅館は一部屋一名となっております) (希望により二名一室も可能です)

◇募集人数…二十名(最小催行人員十五名)

◇申込締切…八月三十一日(木)ただし満員になり次第締切りますのでお早めにお申込下さい。

◇お問合せ・申込先…株式会社JT B 首都圏グループ旅行センター(東京都品川区上大崎2-24-9 アイケイビル3階 電話 03-5434-7591、FAX 03-5434-7595担当…藤原)または協会事務局まで。

◇夏季休業のお知らせ

事務局業務は、八月十一日(金)から八月十七日(木)までお休みをいただきます。ご不便をお掛けしますがご容赦下さい。